

工学専攻の学生のための「日本語強化コース」と 語学専攻の学生のための「専門強化コース」

杜鳳剛（大連理工大学外国語学院）

本学は、70年代の後半に理学工学専攻の学生のための日本語講座を開講し、中国国内の理工系大学の中では、比較的早い時期から日本語教育に取り組んできた大学の一つである。

本誌でも紹介したように、本学は、社会の求人ニーズに応じ、複合人材の育成を目的として、1987年8月に、機械工学専攻の学生のための「日本語強化コース」を設置した（李篠平、本誌第5号2003）。2001年9月から日本語専攻科も設立し、理学工学を中心とする大学の「日本語専攻」を如何にして特色づけるかということも議論の課題になった。模索しながらの試みであるが、以下、本学の日本語教育への取り組みを簡単に紹介する。

工学専攻の学生のための「日本語強化コース」

この「日本語強化コース」の学生の在学年数は普通の学部生より1年長く、5年間になる。5年間合計で、106単位、1,782時間の日本語の授業を行う。2年目から「製図」、「機械設計の基礎」、「機械制御の基礎」などの専門分野の授業科目も日本語で講義するというのは、このコースの特色の一つである。

1992年7月に第一期生が卒業した。このコースの卒業生は、中国語、日本語、英語が出来、機械工学を本専攻としていることから、仕事への適応能力が普通の大学卒業生より一段と高いと評価されている。

このコースの詳細については、本誌第5号を参照されたい。

語学専攻の学生のための「専門強化コース」

本学の日本語専攻科に入ってきた学生は、もともと80%以上、理学か工学専攻を希望していた学生である。コースの設計もこの学生たちの知識背景を考慮しなければならない。

教養としての基礎科目の中に、普通語学専攻においては考えていない次のような科目を設置した。

1. 高等数学 96時間（必修科目）
2. 物理学 32時間（必修科目）
3. 化学、生命工学 64時間
4. 計算機 96時間
5. 経営と管理 24時間

学生に選択肢を与えるために、「日本語専攻」の中に三つの「専門強化コース」を用意した。

1. 日本語日本文学コース
2. 経済経営コース
3. ニヶ国語（英語）コース

この「強化コース」に入る前に、「日本語専攻」の学生として、本専攻の日本語関連科目を全員履修する義務がある。「日本語日本文学コース」は、専攻としてさらに深めたいとするコースで、これを選択せずに、「経済経営コース」あるいは「ニヶ国語（英語）コース」を選択してもよい、という設計になっている。

この三つのコースの時間配分は次のようになっている。

- ・日本語日本文学コースは160時間
- ・経済経営コースは256時間
- ・ニヶ国語（英語）コースは176時間

日本語専攻科は2001年に設置されたばかりの新しい専攻科で、工学専攻の学生のための「日本語強化コース」とは違って、このコース設計の妥当性はまだ実証されていない。多くの専門家からご教示をいただければ、と思う次第である。詳しい資料は下記に請求いただきたい。

請求先：杜鳳剛 大連理工大学外国語学院
（院長・教授） fenggang@dlut.edu.cn